



東京赤坂ロータリークラブ週報
Weekly Report

2020～2021 年度クラブテーマ
会長 熊本 誠司

「学び、理解し、楽しむロータリー」

本日の例会：2020 年 8 月 7 日（金）通算 1564 回 本年度 第 4 回

卓話：「インドにおける危機管理、コロナ対応の実情」（仮題）
ALSOK インディア社長 番場 利光 氏 【インドより ZOOM 参加】

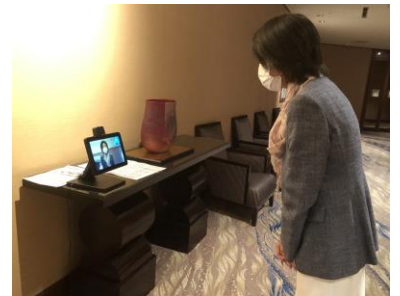
● 第 1563 回 例会報告 / 2020 年 7 月 17 日

出席報告：会員 46 名 27 名（内 ZOOM 6 名）
ゲスト：山本 謙三 氏（卓話） 計 1 名

卓話：「なぜ人は大都市圏に集まるのか
～人口移動と経済」
オフィス金融経済イニシアティブ
代表 山本 謙三 氏

会長報告：

木下京子元会員のご紹介で、受付横にはカメラが人を認識して瞬時に体温を測定する装置が置かれました。



ご紹介者：穂苅会員



山本氏は日本銀行の理事を務められ、穂苅会員の日銀時代の上司だった関係から紹介頂きました。



7月 17日 9 件 21,000円 累計 137,000 円
多額の寄付を有難うございました。（敬称略）

熊本誠司/石井謙次/コンシニ/穂苅裕久/尾関武男/
坂口紘平/大谷啓子/田路和也/関野雄志

	日 付	開始時間 終了時間	場 所	事 項	内 容
今 後 の 予 定	8 月 14 日			休 会	
	8 月 21 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：「異文化コミュニケーション について」（仮題） 山野美容芸術短期大学教授 山口博嗣氏
	8 月 28 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：イニシエーションスピーチ 田路 和也 氏
	9 月 4 日	12:30 13:30	B1 オーロラ ANA インターコンチネンタルホテル東京	例 会	卓話：イニシエーションスピーチ 藤井 隆宏 氏



2020-21 年度 国際ロータリー第 2750 地区 福原有一ガバナー

【所属クラブ】	国際ロータリー第 2750 地区 東京銀座ロータリークラブ
【生年月日】	1947 年 8 月 12 日生
【職業分類】	保険代理業
【学 歴】	1970 年 3 月 慶應義塾大学商学部 卒業
【職 歴】	1970 年 4 月 株式会社資生堂 入社
	1993 年 6 月 株式会社フクハラアイズ 代表取締役社長
	1994 年 3 月 株式会社福原コーポレーション 代表取締役社長
	2002 年 12 月 株式会社アスム 代表取締役社長

皆さん、はじめまして。2020-21 年度 ガバナーの福原有一です。所属は東京銀座ロータリークラブです。

クナーク R I 会長は「ロータリーは機会の扉を開く」を 2020-21 年度のテーマに掲げられました。ロゴは 3 つの扉、色使いも鮮やかです。

ドイツの方らしい論理的なテーマと北欧のご出身らしい鮮やかな色使いのロゴです。サンディエゴの会場で一人のガバナーエレクトとして拝聴していた私は、「長年の友人を選ぶように」ロータリーの機会の扉を開きたい、「時代の変化に合わせるように」ロータリーの機会の扉を開きたい、そして「多様性を重視しながら」ロータリーの機会の扉を開きたいものだ、と感じました。

彼の任期是一年ですが、その提唱する「ロータリーは機会の扉を開く」というアプローチ、つまり長年の友人を選ぶがごとく仲間を募り、時代の変化に合わせ、多様性に配慮しつつ、そして静かな勇気を持って機会の扉を開けよう、という呼びかけは、一年という期間を超えたとりもなおさず普遍性をもつものではないでしょうか。

それは、私が自分の年度で提唱しようとする「バリアフリー・マインド」とも深く関係します。それを一言で申せば、相手と同じ視線に立つということです。

彼の言う通り、ロータリーで機会の扉を開けるのは私たちです。ただ扉の開け方は人によって様々です。望むらくは、そのときの私たちの心は、奉仕される相手と同じ視線に立つという構えであってほしい、上からのお仕着せや、奉仕のルールばかりを強調せず、柔軟な心で、相手と同じ土俵であってほしい、と思います。

またそれはわが地区の地域性や私たちの歴史に根ざしたものでもあります。日本人である私たちが生きている環境や、歴史、この地で連綿と続く自助・公助・共助という奉仕の来し方に思いを致せば、別け隔てのない心での奉仕、バリアフリー・マインドというアプローチは自然なことではないかと思っています。ロータリーにおける個別性や多様性の一つの発現でもあらうと考えています。

ところで皆さん、ロータリーは本当に変化しています。不安な心持ちでサンディエゴに到着した私は、今回改めてそのことを実感いたしました。女性や若者の参加、若者への期待、新クラブの新設や既存クラブの強化、会員基盤や広報の強化、といった従来からの課題はもちろん、デジタル化の進展、環境意識の高まり、多様性のあり方、そしてなにより次の時代のロータリーをどう構築して行くのか、などなど実に様々なレベルで真剣な模索が続いています。

こうした個々の課題には、手頃な解決策や方法論がいつも用意されているとは限りません。むしろ、未解決の問題の方が多いいのではないかとさえ感じます。それはガバナーである私とて同じ、クナーク R I 会長も同じでしょう。ただ、こうした真剣な模索を、皆で続けることが尊いのではないのでしょうか。

皆さん、これからの一年間、ご一緒に考えそして行動しましょう。「ロータリーの機会の扉」を「バリアフリー・マインド」で開けてみようではありませんか。どうぞ宜しくお願いいたします。

【ロータリー歴】

1995 年 11 月	東京銀座ロータリークラブ入会
2005-06 年度	東京銀座ロータリークラブ幹事
2014-15 年度	東京銀座ロータリークラブ会長
2011-12 年度	地区奉仕プログラム委員会副委員長（社会奉仕担当） 地区社会奉仕委員会委員長
2016-17 年度	地区奉仕プログラム委員会委員長
2017-18 年度	地区研修委員会委員 地区国際大会推進委員会委員 地区奉仕プログラム委員会・国際親善委員会委員
2018-19 年度	銀座・日本橋グループ ガバナー補佐
2019-20 年度	ガバナーエレクト

ロータリー財団：
メジャードナー、
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、
ベネファクター、ポール・ハリス・ソサエティ
米山奨学会：米山功労メジャードナー